



- 16 川崎遺跡古墳時代住居跡**
昭和49年第一次調査で発見された住居跡の一つで古墳時代前期のものと考えられる。この住居は、隅の正方形で一辺7mをこえる大型住居と呼ばれるものである。
- 17 大杉神社奉納額**
明治11年(1878)に、船の守り神として創建された大杉神社に、明治18年(1885)9月、新河岸川、荒川、江戸川、利根川、鬼怒川など関東一円の船頭ら約百人が協賛し、天狗の面付きの額を大杉神社に奉納した木製の額である。
- 18 板石塔婆 弘安4年11月銘**
徳性寺の山門脇にある弘安4年(1281)阿彌陀一尊板碑(あみだいつそんびたひ)は、高さ117cm、幅31cm、厚さ3cm、ほぼ方形に近く、鎌倉時代後期の有力者によって造られたと思われる。
- 19 けやき**
苗間神社の社殿裏手にあるけやきで、神社の神木(しんぼく)とされている。樹齢は約400年、高さ17メートル、目通り周囲は約5メートル、根回り10メートル、枝張り9.5メートルに及び市内最大規模の榎木です。
- 20 苗間神社境内の常夜燈(じょうやとう)**
苗間神社境内の社殿脇にレンガ造りの常夜燈が残されている。この常夜燈は、旧大井村初代村長の神木三郎兵衛による制燈と想われ、建立年は不明であるが、明治20年代中ごろの様式を持つ埼玉県内で最も古いタイプのレンガ造りである。
- 21 角の常夜燈(じょうやとう)**
旧川越街道を折れ戻り地蔵を経て大山阿夫利(あぶり)神社に向かう大山地区の最初の曲がり角に立つためこの名がある。享和2年(1802)の建立であるが、立石と石は明治30年(1898)の修繕。
- 22 向かい天狗図絵馬**
江戸時代初期の寛永年間(1624~1644)に長沼氷川神社に奉納された。境内最古の部類に属する絵馬。縦68センチメートル、横92センチメートルの大きさで、向かって右手に赤顔の天狗、左手に緑色の鳥天狗(からすてんぐ)が、それぞれ圓筒(うちわ)を手にして向かい合って座っている絵柄になっている。
- 23 三角の浅間様と富士講**
龜山として信仰を集めた富士山に参詣する富士講が、三角、原のふじにより結成されたのは幕末から明治時代初期のことである。徒歩や馬以外に交通機関がない時代、講の人びとは富士山から運んできた岩岩を使ってミニチュアの富士山(富士塚(ふじづか))を築き、石の祠(ほら)をまつことにした。
- 24 浄禅寺跡遺跡出土の礫石経**
江戸時代末期に鹿寺になった浄禅寺跡の経塚(きょうづか)から出土した経石で、数量は76170点におよぶ。経石は、祈願のために石に墨で経文等を書いたもので、浄禅寺跡遺跡のものも、川原の小石に「妙法蓮華経(みょうほうれんげきょう)の経文や人名、年月日等が書かれている。江戸時代中ごろの元禄9年(1696)7月2日から元禄15年7月27日までの6年間にわたって浄禅寺住僧が中心になって経文等が書かれたことが判明した。
- 25 東台金山公園**
縄文時代中期の大集落と境内でも屈指の規模を誇る奈良時代の大規模な製鉄遺跡。発掘された製鉄炉は、東台金山公園に復元されている。
- 26 城山公園**
徳川家康の御殿跡。寛永11年(1634)に徳川家康が、平定17年の発掘調査で幅12mの堀跡を確認した。発掘された製鉄炉は、東台金山公園に復元されている。

- 27 平野家住宅**
平野家住宅は、明治初期に建てられたと思われる。明治30年代に下赤坂(現在の川越市)から現在の場所(ひきや)に移築された。南向きに建てられた母屋の規模は、桁行(けたゆき)1間(まくち)が7間4尺(約14m)、梁行(はりゆき)(奥行)2間(約3.6m)で二重梁となっている。現在トタンで覆われているが、平屋高棟(ひらやせむね)の茅葺(かやぶき)屋根は軒が低く、平野家の外観上の特徴となっている。(所在地:大井武蔵野)
- 28 権現山古墳群 県指定**
市内亀地区の新河岸川沿いにある権現山古墳群は、3世紀後半から4世紀初頭に造られ、前方後方墳1基と方墳11基の古墳からなっている。墳丘が現存する稀少な初期古墳群であり、古墳文化の成り立ちを示す上で学術的に貴重な遺跡であるとして、遺構がよく残っている6基の古墳と出土土器7点が平成14年3月22日に埼玉県指定史跡に指定された。古墳の周りにめぐらされた溝から出土した葺や高坏は、葬送儀礼に用いられ、古墳の年代を判断するうえで手がかりとなる。現在、上福岡歴史民俗資料館に常設展示されている。
- 29 回漕間屋吉野屋土蔵 国登録**
川越と江戸を結ぶ新河岸川舟運(しんがしわいしゅうりん)の船着場であった福澤河岸は、江戸時代後期には3軒の船問屋を中心に町並みが形成されていた。その一つである回漕間屋(かいそうどうや)吉野屋は、江戸時代中ごろの安永2年(1773)に船問屋として江戸幕府より公認され、大正時代末まで回漕業を営んでいた。吉野屋の敷地には、最盛期の明治中期には船荷を納めた一番から十二番までの土蔵などがあつたが、現在では、この土蔵蔵が残り残されている。吉野屋の土蔵は、福澤河岸が繁栄していた往時の姿をしのばせ、歴史的景観に寄与する貴重な文化財として、平成10年9月23日に国の登録有形文化財になった。
- 30 旧大井村役場 国登録**
昭和12年(1937)に大井村役場庁舎として建てられた。昭和46年12月まで大井町役場として使用されていたが、その後は東入間警察署・大井小学校・大井町教育委員会が利用している。外観上、一部に手が加えられているものの、基本的な構造など建築当時のものがよく残されていること、数少ない官公庁の木造建築物であることなどにより、平成14年2月14日に国の登録有形文化財になった。



1 権現山
権現山は、直径15m、高さ1.5m程の塚の名称で、海地区に残る伝承によれば、川越方面に鷹狩りに来た徳川家康(没後「東照大権現」の称号を贈られた)がこの塚の上で休息したとされている。家康伝承がある史跡として権現山は文化財に指定された。



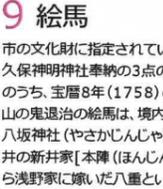
4 阿彌陀一尊画像板碑
この板碑は古老の話によると、もとは川崎の小子土橋の石橋になっていたのを当所に祀ったものであるという。これは、阿彌陀堂の本尊が火災により消失したことにより、代替として板碑を祀ったものと伝えられている。その後再度堂宇が消失しているため板碑の表面は黒く変色し破損が甚だしい。石材は緑泥片岩。



7 絵馬
江戸時代前期に福岡村の領主であった旗本布施氏から奉納されたものである。三点の絵馬は、川越市を含む入間郡東部の中でも時期的に最も古いものに属し、本市の民俗文化財として重要な価値をもつものとして指定された。



8 釈迦如来像
釈迦堂本尊である本像は、木造玉眼、漆箔(しつぱく)の釈迦如来坐像である。昭和46年に行われた仏像調査で、江戸時代初期に造立された仏像であることが確認されたことにより昭和47年に文化財に指定された。



9 絵馬
市の文化財に指定されている亀久保神明神社奉納の3点の絵馬のうち、宝暦8年(1758)の大江山の鬼退治の絵馬は、境内にある八坂神社(やさかじんじや)に大井の新井家[本陣(ほんじん)]から浅野家に嫁いだ八重という女性が奉納したと伝えられる。また、同じ拝殿内に掛けられている明治19年(1886)の奉納絵馬は、縦68cm、横104cmの大きさ。



2 薬師如来像
薬師寺本尊の本像は、肉身を金泥塗り、衣部を古色仕上げとした木造・彫刻の薬師如来坐像である。構造は複雑で膝部、台座の前半分など現在の仏像の部材を活かしながら、新たな部材を巧みにつなぎ付けて現在の像にしたものと考えられる。この補修は江戸期に行われたものと考えられるが、当初像と思われる面が、像内(腹内)に納入されている。昭和46年の仏像調査を受け昭和47年に文化財に指定された。



5 阿彌陀如来坐像
安楽寺本尊の本像は、肉身を金泥塗り、衣部を彩色(何れも後補)仕上げとし、唇に朱彩、鬘で髷・眉を描く、木造・玉眼の阿彌陀如来坐像である。昭和46年の仏像調査を受け昭和47年に文化財に指定された。



3 地藏尊坐像
地藏堂本尊の本像は、木造、玉眼で、肉身を金泥塗り、衣部を古色仕上げ及び漆箔とした地藏菩薩坐像である。本像は、木製の岩屋状の籠(が)に安置され、更に、この籠は厨子に収められている。また、台座裏には「駒林村/地藏堂」の墨書がある。昭和46年の仏像調査により昭和47年に文化財に指定された。



6 鉄造阿彌陀如来像
西養寺本尊の本像は、鉄で鑄造された阿彌陀如来坐像である。形状は、衲衣(のうえ)を通肩(つうけん)にまとい、腹前で阿彌陀の定印を結び台座の上に結跏趺坐(けっかふざ)する。材質による彫削のため螺髪(らまつ)、肉髻珠(にくせきじゆ)につけいしゆ)、白毫(びやくごう)を表さない。



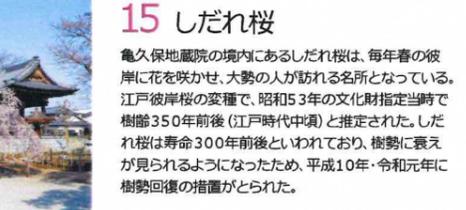
- 凡例**
- 指定文化財
 - 🏠 説明板
 - 🏯 寺院
 - 🏪 神社
 - 🏠 神社仏閣(ほか)
 - 🏠 トイレ
 - 主な遺跡
 - 🎓 学校
 - 📡 信号機



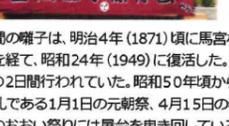
12 大井旭はやし
大井の中組・下組・坂下が合併して結成した囃子で、上組の屋台とともに大井地区内を巡行しながら下組の屋台の上で演じられた。昭和の始めごろには先代にあたる人々が各地にばらばらに出て亀久保・藤原・北永井と交流があった。祭りが盛り上がり、屋台どうしが出会ったときに「ひっかかせ」がおこなわれた。このときに囃子のたたき合いが始まり、どちらか相手の太鼓(たいこ)に引き込まれた方が負けとなった。1月1日の大井氷川神社の元朝祭では、神楽殿で居囃子を行う(大井はやしと隔年交代)他、毎年7月の大井の天王様とおひ祭りには屋台を曳き回している。



13 復元大井戸
大井の名称の由来となったとの説もある平安時代の井戸。昭和50年(1975)の発掘調査で確認されたが、砂川堀の改修に伴い、現在は当初の位置より北側に復元されている。



15 しだれ桜
亀久保地蔵院の境内にあるしだれ桜は、毎年春の彼岸に花を咲かせ、大勢の人が訪れる名所となっている。江戸彼岸桜の変種で、昭和3年の文化財指定当時で樹齢350年前後(江戸時代中頃)と推定された。しだれ桜は寿命300年前後といわれており、樹勢に衰えが見られるようになったため、平成10年・令和元年に樹勢回復の措置がとられた。



11 苗間はやし
苗間の囃子は、明治4年(1871)頃に馬宮村(現在のさいたま市)から伝わった新バヤシで、木下流といひ、大正~昭和初期と戦争中の中断を経て、昭和24年(1949)に復活した。苗間地区の天王様は、現在、毎年7月25日のみ演じられるが、昭和1・2・3年ごろまでは24・25日の2日間行われていた。昭和50年頃から天王様の町内回りはトラックの荷台に屋台を載せて演奏している。その他、苗間神社の祭礼である1月1日の元朝祭、4月15日の春の大祭、10月15日の秋の大祭では苗間神社神楽殿で居囃子が行われている。また、7月のおひ祭りには屋台を曳き回している。